

平成27年第1回弘前市教育委員会会議録

日時 平成27年1月14日（水）

場所 中央公民館岩木館2階大研修室

◇議事日程

- 1 開会宣告
- 2 定足数確認
- 3 会議録署名者の指名
- 4 会期決定
- 5 議案の審議

議案第1号 平成26年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について

- 6 閉会宣告

◇付議事件

議事日程に同じ

◇出席委員

1番 九戸 眞樹 委員、2番 前田 幸子 委員、3番 佐々木 健 委員、
4番 土居 真理 委員、5番 一戸 由佳 委員

◇説明のため出席した者の職氏名

教育部長 柴田 幸博、教育政策課長 櫻庭 淳、理事兼弘前図書館長兼郷土文学館長 宮川 慎一郎、学校教育推進監兼学校教育改革室長 工藤 雅哉、学校企画課長 北嶋 郁也、学務健康課長 鳴海 誠、学校指導課長兼教育センター所長 佐藤 忠浩、生涯学習課長 土谷 伸夫、博物館長 長谷川 成一、文化財課長補佐 斎藤 弘之

◇出席事務局職員

教育政策課長補佐 高谷 由美子、教育政策課総務係長 前田 修、教育政策課総務係主事 千葉 秀克

午前9時30分 開会

○委員長（九戸眞樹委員） これより、平成27年第1回弘前市教育委員会会議を開会いたします。ただいまの出席者数は5名で定足数に達しておりますので、直ちに会議

を開きます。会議録署名者に2番前田幸子委員と3番佐々木健委員を指名いたします。

会期は本日1日といたしたいと思いますがいかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(九戸眞樹委員) ご異議ないものと認め、会期は本日1日といたします。

本日の案件は、議案が1件となっております。

・議案第1号について

○委員長(九戸眞樹委員) それでは、議案第1号平成26年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について、事務局から説明をお願いします。

○教育政策課長(櫻庭 淳) 議案第1号平成26年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について説明いたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定では、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りながら、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して、議会に提出するとともに公表することを義務付けております。

市教育委員会では、この点検・評価事務を「弘前市教育振興基本計画」の施策の進行管理事務としても位置付けて実施しており、そのため、評価にあたりましては、決算が完結した平成25年度の事務事業を整理し、計画で体系化された35の施策ごとに、その進捗状況を点検する形としております。

作業の流れとしては、まず、教育委員会事務局で点検評価を行い、それに加えて、教育委員同席のもと、評価会議を実施してまいりました。その評価結果をとりまとめたものがお手元に配付しました報告書であります。

報告書の構成といたしましては、「平成25年度教育委員会の活動状況」、次に「教育委員会における事務の点検及び評価」、最後に「学識経験者による意見」となっております。なお、今年度も、点検及び評価に対する学識経験者による意見は、弘前大学教育学部に依頼いたしました。

報告書の82ページからが「意見」となります。計画における3つの基本方向ごとに施策の取組について、良い取組への評価や改善を要する点についての助言をいただいております。意見には、取組についての具体的な指摘や助言が数多くあることから、各課等において意見の内容を確認し、改善に向けた取組を進めてまいります。

最後に、議会への提出につきましては、速やかに議員へ配付いたします。

また、公表につきましては、市役所や岩木・相馬の各庁舎並びに出張所などの刊行物閲覧コーナーに配置するほか、弘前市教育委員会ホームページを活用することにしております。以上です。

○教育部長(柴田幸博) 補足いたします。今回、報告書の議員配布や議決が非常に遅くなりました。これにつきましては、市の市民評価アンケートの公表が12月26日となり、その評価の内容がこの中にも活用されておりますので、その報告を待ってからとなっ

たためであります。例年であれば、9月頃には議員へお渡ししているものであります。

○委員長（九戸眞樹委員） ただいまの説明に対しご質疑等ありませんか。

○2番（前田幸子委員） 施策管理シートに施策の推進状況と示す指標の動向という表があります。実績値、対基準値、対中間・対最終目標値の項目が記載されていますが、理解するのが難しいです。市民の方や議員にも見せるわけなので、もう少しわかりやすくしてほしいと思います。

○1番（九戸眞樹委員） こういう評価や点検というのは、もっと簡素にすべきだと思います。つまり、評価のために仕事をしてはいけなからです。本来は前に進む推進力や改善点に力を入れるべきであり、次に活かしていく材料に使うべきです。

○2番（前田幸子委員） 68ページの施策の推進状況を示す指標に、津軽の古い漆塗りの復元作品を増やしますとあります。弘前市の現状を考えると、観光館2階に漆塗りの過程について展示していますが、非常に暗く見えづらく、そこに行くような動線になっていない。そんなことを考えると復元作品を増やしますと書いているのに対して、前向きなやり方があるのではないかと思います。増やしたら次どうするのかということを考えるべきです。総評・改善方針にその辺のことが書かれていないので考えてほしいと思います。

それから63ページの総評・改善方針は、非常に素晴らしいです。机上論ではなく、自分の足を使って現場に行き、実際見て書いているというのがよくわかる文章で非常に感動しました。こういう文章が評価だと感じました。逆に、62ページの施策の推進状況を示す指標が、習い事や趣味、ボランティアなどの生涯学習活動をしている市民を増やしますとなっています。この指標は、この施策に合っていないように感じられます。公民館まつりへの地域住民の貢献度に繋がる指標に設定する必要があると思います。またこの指標は、54ページにも使われています。

○生涯学習課長（土谷伸夫） 指標の設定については、どこの課も同じく大変苦勞しております。この施策は施設の整備と活用でありますので、使いやすい施設ということで人が来るような施設の指標にもっとも合う指標として、「市民を増やします」を設定しております。

○1番（九戸眞樹委員） 他に使える指標がないということですね。

○教育部長（柴田幸博） 先ほどの文化財の施策について説明いたします。

津軽塗の古い技術に対し、毎年補助金を出して何品か作品を作っております。年度末、作った何品かを百石町展示館を活用し披露しております。この補助事業の目標が、国の無形重要文化財を目指しているものです。まだ結論は出ておりませんが、その為の津軽塗の取組であります。作品展示の一例を挙げますと、市長室奥の貴賓室に飾っております。

○2番（前田幸子委員） 貴賓室には入ることがないので知りませんでした。せっかくすごく一生懸命に活動している割には目立っていないのが残念です。もっと前に出して見せようという思いがあっても、観光館2階での展示は暗く悲しくなります。動く道路でもあればいいのかもしれませんが。

- 1番（九戸眞樹委員） 何回も観光館のリニューアルの話は出ているので、教育だけではなく観光側と協力してやっていただきたい。
- 5番（一戸由佳委員） 50ページの施策にプラネタリウム事業があります。このプラネタリウムに障がいをもった子どもたちを夏休みや冬休みを活用して連れて行っていきます。対応や受付はとても良く、特別にその子どもたちだけのための上映時間も設けていただいているのですが、実際にプラネタリウムを紹介してくれる方のマイクを使ったアナウンスがあまり良くなかったです。もっとプロらしく子どもたちが引き込まれるようなお話をしてほしいと感じました。子どもたちはすごく期待してわくわくしているのに、映像に対するしゃべりがあまり慣れていないのかやる気の問題なのか、すごく退屈でした。アナウンスする方全員がそうではないのかもしれませんが、それがすごく残念でした。市でやっている施設でもありますので、子ども達がどんどん行きたくなるような、また見たくなるような場所になってもらえたらいいと思います。
- 生涯学習課長（土谷伸夫） 申し訳ありません。今どの程度の経験のある方がされているのかわかりませんので確認いたします。もう少し練習を積んで慣れていただき、自信を持ってアナウンスできるようにしていきたいと思います。
- 5番（一戸由佳委員） 一生懸命聞こうと思っても、セリフが棒読みであって原稿をただ読んでいるのだろうという印象があり、子どもたちがそれを聞きながら引き込まれるのは難しいと思います。特に目の見えない子どもは音だけを頼りにしています。もし改善できるのであれば、せっかくの場所なので子どもたちがもっと行きたい、何回も行きたいと思えるような場所になってもらって、もっと活用してもらいたいと思います。
- 生涯学習課長（土谷伸夫） 委員が言われるように、人へ説明するということへの練習をしていくようにしたいと思います。
- 2番（前田幸子委員） アナウンスしている方は、大学生などのアルバイトですか。
- 生涯学習課長（土谷伸夫） 嘱託員です。
- 1番（九戸眞樹委員） 今まで普通にやってきたものは、もう一度見直しをしていただきたい。たった一人の下手な人に会えばその人が弘前市になります。どなたに会っても素晴らしいと思えるようになっていただきたい。他人の目で自分の事業を点検していただくと、まだまだ次のステップが見えてくるのではないかと思います。
- 2番（前田幸子委員） 学社連携とか様々言われている中で、学校から働きかけて公民館にお願いすることや、公民館の方から学校にこの講師を活用して欲しいとお話することなど公民館と学校の連携は公民館によって格差が大きいです。そういう活動をする事への公民館の職員の方たちの意識を高くしていくことを考えていかなければいけないと思います。どうすればいいのか私自信ではわからなく、何かいい方法がありますか。
- 生涯学習課長（土谷伸夫） 公民館職員の研修事業につきましては、弘前大学の生涯学習センターの藤田准教授にお願いをし、年に3回か4回程度開催しており、その他の様々な研修の開催や、県の社会教育センターで行う研修に参加を希望する職員の派遣

をしております。また、他の公民館の事業も見るなど、やり方を覚えてやってくださいとお願いしておりますが、まだ足りないということで再度お願いをしたいと思っております。

- 1番（九戸眞樹委員） これからの公民館の果たす役割は今よりも大きくなると思えます。公民館は、学校、地域との関わりの結節点になりますので、そこを考えていただければと思います。
- 2番（前田幸子委員） 32ページの教育委員による学校訪問に決算がありますが、何に使われているお金ですか。
- 教育政策課長（櫻庭 淳） 費用弁償になります。学校へ自分の車や公共交通機関で行かれた際の旅費ということであります。
- 2番（前田幸子委員） 21ページの総評・改善方針に、英語科デジタル教科書導入に関する記載がされていて、75パーセントの生徒から授業がわかりやすいとあります。これは決して高い数字ではないと思えます。残りの25%の生徒はわからない、若しくはわかりにくいという回答になるかと思えますが、詳しくお知らせください。
- 学務健康課（鳴海 誠） 中学校にアンケート調査をして提出してもらいました。まず、機器が動かなかったとか、音声と映像がずれるなどの不具合でこういう数字に留まってしまったということで、システム自体については問題がなかったと記憶しております。
- 1番（九戸眞樹委員） 私たちが学校訪問した時にも映像が途切れたり見づらかったり小さかったりしていました。
- 2番（前田幸子委員） 機器の取り扱いに関することで、活用以前の問題ですね。
- 教育部長（柴田幸博） 電子黒板などが導入されていないために、黒板に下げていた紙に映している学校もありますので、やはり機器の整備はする必要があります。
- 2番（前田幸子委員） 58ページの施策推進に向けた主な取組の点検の項目には、子ども達のことを考えている事業や、様々前向きな事業がたくさんありますが、その中で、一番金額が多い成人式事業が、この項目に入っているのは異質なような気がします。また、次のページの総評・改善方針の中にも、成人式は特に改善が必要だと思うのに記載がされていない。この項目に入れて理由を教えてください。
- 生涯学習課長（土谷伸夫） 生涯学習課が担当しております他の目標である「生涯学習推進体制の充実」、「多様な学習機会の提供」、「社会教育施設の整備と活用」とも違い、二十歳になる大人に対し「育成」という言葉は合いませんが、この「次代を担う青少年の育成」の目標しか考えられませんでしたので、この中に入れております。
- 1番（九戸眞樹委員） この目標にしか当てはまる目標がないということですね。
- 生涯学習課長（土谷伸夫） 成人式事業が、総評・改善方針に記載されていないのはよくありませんので、次回から記載するようにいたします。
- 2番（前田幸子委員） 81ページの効率性の項目に、職員の適正配置とありますが、具体的に教えてください。
- 文化財課長補佐（斎藤弘之） 近年、特に文化財を公開していくことについて、あるい

は学習への活用ということで様々やってきておりますが、専門性の高い発掘や調査等と両立していくことは、限られた専門職員の状態では今後さらに事業展開していく上で考えていかなければなりません。発掘関係には専門職員が必ず必要であります。一般事務と兼職しております。これらのことから人員の配置や事務の手法が課題となっております。

○2番（前田幸子委員） 今まで長く文化財のことをやってきた方が博物館に転勤となりました。やはり博物館の方でも彼を必要としたのか、また何か新しいものを立ち上げながら別な視野でやっていこうという思惑があったのか教えてください。

○教育部長（柴田幸博） 異動はやはり長かったからだと思います。彼は専門職ではありません。確かに有能な人材だと思いますが、部署に固定すること好ましくありません。

○博物館長（長谷川成一） 彼が博物館に異動になったことは、決して不適切な人事だとは思っておりません。現在博物館で進めております展示のリニューアル、広報や遺品関係などにおいて大変貢献していただいております。大変有能かつ博物館にとって有効な人材を得たというふうに思っております。

○2番（前田幸子委員） 非常に彼は有能な方でありましたので、新しい風がまた博物館に吹いたと感じています。

○教育部長（柴田幸博） 来年度、学校教育にぜひ生かしていきたいものに石垣の関係で弘前城の曳屋があります。これについては先日校長会において、説明させていただきました。すべての小学校6年生を対象にバスを用意して現場見学会をやり、そして中学生には自主研修ということで曳屋を見ていただきます。また、その他出前授業についても公園緑地課・文化財課協力のもと、学校から要望があればどんどん出ていきます。来年度は石垣や弘前城に特化した形で取り組むこととしております。

○文化財課長補佐（斎藤弘之） 市内の小学校6年生の子どもたちにとって大事な機会がありますので、子どもたちが学ぶプログラムについて、小学校及び中学校の社会科の研究部会の方々から意見をいただきました。弘前城の曳屋に焦点を当てて体験学習を実施したいと考えております。

○委員長（九戸眞樹委員） 他にご質疑等はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（九戸眞樹委員） それでは、議案第1号を可決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（九戸眞樹委員） ご異議ないものと認めます。よって議案第1号は原案どおり可決されました。

以上で本日の会議に付議された案件の審議はすべて終了いたしました。これをもちまして平成27年第1回弘前市教育委員会会議を閉会いたします。

午前10時18分閉会

会議録作成者

弘前市教育委員会

教育政策課総務係主事 千葉 秀克

弘前市教育委員会

委員長 九 戸 眞 樹

署名者 前 田 幸 子

署名者 佐々木 健